

東海自治体問題研究所設立50年を記念する ブックレット刊行によせて



東海自治体問題研究所理事長
市橋 克哉

★1月刊行“産業構造研究会編”

「東海圏の産業構造変化2023 地域に根ざす産業への転換を探る」

★2月刊行予定“自治体行政研究会編”

「『地方行革』がもたらしたものとこれからの自治体行政」

★3月刊行予定“地域づくり研究会編”

「自治基本条例を軸とした、参加と協働の地域づくりの課題と展望」

東海自治体問題研究所は1973年に設立され、それから半世紀、昨年50周年を迎えた。

東海自治体問題研究所が誕生した1973年、このころは、年配の方々にとっては周知の事実であるが、名古屋を含め日本中の大都市圏で、中小業者、農民を担い手とする地方の古典的住民自治と並んで、公務労働者をはじめとする労働者を新しい担い手とする都市の現代的住民自治が活性化し、その勢いを力にした革新自治体が急増する時代であった。1970年代・80年代初め、当時、住民の新しい行政需要（保育、教育、医療、福祉、環境、農業・中小企業振興、大企業規制等）の増大とそれを担う大量の公務労働者の登場を背景にして、新旧の住民自治組織と公務労働者とが協働して地方自治体を、住民による住民の自治（協治）能力の発達を実現する民主主義の「草の根組織」に転形する明るい展望が、「現実味」を帯びて語られていた。

あれから半世紀、今日、時代は真逆の方向へと暗転しつつあるように見える。

一連の深刻な複合危機（気候変動、大規模災害、COVID-19のパンデミック、ウクライナとパレスチナの戦争、台湾・朝鮮半島危機、

難民の増大、極右ポピュリストの台頭、少子高齢化による国力の衰退等の個別危機の複合化）のなかにあって、異なる個別の危機への対応の必要という目的は、その達成のための手段と接合するとき、それ自身に価値があったそれぞれの手段は、当該目的達成のための道具に転形した。例えば、地方自治原則の道具化とそのみなおし（否定）が公然と語られている。

道具化した諸手段に生じた共通の転形だけではなく、異なるもののようにみえた諸目的においても、それらが溶解して収斂している。例えば、行政の遅れたデジタル化対応の必要、COVID-19のパンデミックへの対応の必要という異なる目的において、これまで憲法の原則である地方自治原則のなかに封じ込められ犠牲となってきた国家の「主権的なもの」や「政治的なもの」を解き放つという共通の目的への転形も起こっている。

しかし、複合危機のなかにあって語られる議論には、憲法原則である地方自治がその「縛り」を破られ、その破れ目から顔を出した国家の「主権的なもの」や「政治的なもの」を正当化する議論だけではない。今日、地方

自治を桎梏とみて後退させようとする議論とのせめぎあいのなかにあつて、もう一つの議論、すなわち、「流れに抗する」道を積極的に語る議論もある。

今回、東海自治体問題研究所の設立50年を記念して刊行された三冊のブックレット、すなわち、『東海圏の産業構造変化2023 地域にねざす産業への転換を探る』、『「地方行革」がもたらしたものとこれからの自治体行政』、そして、『自治基本条例を軸とした、参加と協働の地域づくりの課題と展望』では、地方自治を桎梏とみて後退させようとする議論とのせめぎあいのなかにあつて、この「流れに抗する」道を積極的に打ち出す議論が展開されている。

東海自治体問題研究所による研究らしく、三冊は、いずれも住民のいのちと暮らしとそれをまもる住民自治の視角から、「新たな産業革命」のなかの産業構造、「地方行革」のなかの自治体行政、および、住民の参加・協働による地域づくりについて、すなわち、東海圏の社会、経済および行政の各領域における様々の事例を通して、これらのテーマを分析・検討するものになっている。そこでは、今日、東海圏の諸地域において克服すべき共通の問題となっている社会、経済および行政の衰退という危機状況だけではなく、危機からの脱出の萌芽となりうる様々な徴候についても追究する点で、衰退の危機という「流れに抗して」東海圏の未来を展望するものになっている。

例えば、今、東海圏の諸地域に生まれている地域社会と地域経済の再生の取組み、地域にねざす産業構造転換、住民運動と共同する自治体労働者運動、住民自治の再建、住民の自治（協治）力を強める自治基本条例の可能性、住民協働の地域づくりなどなど、三冊のブックレットを注意深く読むと、これまで「目にはさやかに見えなかった」東海圏の明日を切り拓く「小さな未来」を見つけることができるだろう。今日の複合危機の時代にあつて、このブックレットのなかで取り上げられ

ているたくさんの「小さな未来」は、東海圏の街々で住民のいのちと暮らしをまもる自治の実践を倦まず弛まず追求する人々にとって、おおきな励みになることは間違いないだろう。